

追求するのは洗練。

A_R.Tと書えば、メルセデス・チューナーの代名詞である。Gクラスでその名を世界に轟かせただけではない。メルセデスのはば全車種のプログラムを網羅しカスタマーを魅了する。

そんな彼らがここ数年、尽力するのがレクサスのプログラムだ。A_R.Tブランドを牽引しつつ、自身がデザイナーでもあるイムレ・アルバ氏の美意識にレクサスがハマったのだろうか。ともあれA_R.Tプログラムには、いさぎよい存在がある。

連れ出した豪華のLSは、なかなか上品である。ボディ全体を取り囲むエアロパーツに、代表作「monoART1」の21インチホイール。それだけだ。たったそれだけなのに、ここまで製品の高さを感ずるのはなぜだろう。

思えばA_R.TのGクラスを基調に、メルセデスのプログラムはとても攻撃的で刺激的だ。それがA_R.Tらしきものなりつつあるのが、アルバ氏の美学は、日本人の美しさが伝わるような繊細なカスタマイズの根拠となった。いや、今のメルセデスへのアプローチが悪いとは思わなくていい。

わない。独特の美しさにトゲがあるようなA_R.T流のカスタマイズは素直に好きだ。だが、ライブの台詞と共に次々と攻撃的になっていったメルセデスのアプローチに対して、まっさらなキャンバスから始められたレクサスのプログラムは、アルバ氏の原点を改めて感じさせる。

では、詳細を見てみよう。純正バンパーを活かしたフロントスポイラーに直線的なリヤスカート、純正マフラーを最大限に活かしたリヤスポイラー、この3点がキモとなる。そこにルーフスポイラーとトランクスポイラーが絶妙なアクセントを加えている。エレガントなLSを、ちょっぴりレーシーに仕立てる役目を担っているようだ。

そして忘れてはならないのがホイール。しかしこの「monoART1」は、相変わらず車種を問わず似合うと思う。直線的かつ立体的なスポークデザインは、LSをより引き立てている。フェンダーとのクリアランスを含め21インチというサイズがベストと思えるのは、クルマ自体のボリュームはもとより、各部に配されたエアロパーツと完璧にマッチしているからなのだろう。

かくしてA_R.Tは、レクサス・チューナーとしても王道を歩み始めている。先陣はランドクルーザーに始まったが、レクサスではLS以外のプログラムは発表されてはいない。だが、それも時間の問題だと思える。レクサスがレクサスとして時を待つ限り、アルバ氏もどこかでまたの機会を待たされるはずだ。そう思えるだけの魅力がレクサスにはあり、それがA_R.Tにももたらしているのだ。A_R.Tの存在は仕合せだと思えるのである。



フロントスポイラーを取り入れたA_R.TのLS460のフロント部分



リヤスポイラーとリヤスカートを合わせたA_R.TのLS460のリア部分



21インチのmonoART1ホイールとフェンダーのクリアランス



21インチのmonoART1ホイール



PARTS LIST	
フロントスポイラー	9万4500円
サイドスカート	13万6500円
リヤスカート	9万9750円
トランクスポイラー	6万3000円
ルーフスポイラー	6万3000円
monoART1(21インチ)	12万7500円

A_R.T LS460

お問い合わせ先: 株式会社 山本 (Koyama) | 東京都中央区 | TEL: 03-5561-1111 | FAX: 03-5561-1112

DRESS-UP

TUNING

PARTS